

北中生に身に付けてほしいこと

目を閉じてても自分の名前は書けますよね。それを改めて練習する人はいないでしょう。体に染みついて、いつでもどこでも、どんな状態でもできることに、時間をかける必要はありません。時間と手間をかけるべきは……。

今日は一年の英語の自習を参観しました。自分で考えて一生懸命に取り組む生徒たちの姿は大変素敵でした。ブロック体のアルファベットを丁寧に書いている姿を見て、初々しさを感じました。小学校で英語が教科となったとは言え、書くことに関しては中学校で本格的に学ぶことになります。「ここから書く力がついていくのだなあ」と改めて感じました。

一人の男子生徒がせつせと英単語を書いていました。見てみると、ノートには単語練習スペースとして、縦に数回ずつその単語が書けるようになっています。私はその生徒が数回書いた単語「RESTAURANT」を私は意地悪く手で隠しました。

「この状態で書いてごらん。」
指示通り彼は書き始めましたが、急にペンが走らなくなりました。「RES」まで書いたところで、その後が続かないようです。「よし、五秒間（君が書いた正解を）見せるから、確かめてみてよ。」

そう言って、私は単語を覆っていた手を上げました。彼はしばらく自分の書いた正解を見ていました。その後、書いたのは「RESTURANT」だったり「RESTUARANT」だったり。私が隠す前はその単語をすらすらと書いていたのに、隠されるとたちまち書けなくなっていました。

彼が一生懸命勉強していることは、そのノートを見てわかりました。男子としては整然と丁寧にノートづくりがなされています。がんばろうという気もちが、そのノートからあふれているように感じました。

だからこそ、です。だからこそ、学習方法を教えたいのです。多くの時間やページ数をこなすことだけの学習では、「労多くして功なし」になってしまいます。「Xを○にすること、つまりできないことをできるようにすることが勉強の本質」だと、二月十九日付けの文章に書きました。Xをはっきりと自覚し、それを○にするために効率的に学習を進めること、その方法を北中生に身に付けてほしいのです。

ワークに黙々と取り組む生徒もいました。一通り解答したからでしょうか。おもむろに別冊解答を開けて、すごいスピードで○をつけ始めました。あの様子では、○もつながっているのではないかと思えるくらいです。そして、ワークをパタッと閉じて終わり。「大丈夫かな……」私はそう思いました。一通りやって答え合わせをやったら、ワークはお役御免？ワークをはかないものにしてよいのでしょうか。（五月二十日記）